

音楽科学習指導案

指導者 松前良昌

日時 平成27年11月21日（土） 第2校時（11：05～11：55）
年組 中学校第2学年1組 計39名（男子18名，女子21名）
場所 中学校音楽教室
題材 合唱表現を自分たちで工夫しよう
混声合唱とピアノのための曲集「初心のうた」より『IV. でなおすうた』
木島 始 詩，信長貴富 作曲

題材について

本題材では、歌詞の内容や曲想を理解し、味わうことによって、生徒自らが自己のイメージや感情を意識して曲にふさわしい歌唱表現を工夫していくことをねらいとしている。教材の“でなおすうた”は混声合唱とピアノのための曲集『初心のうた』の第4曲である。作曲に際して信長貴富氏は、「全編を貫くピアノのオスティナートと、骨太な旋律線による曲。光が差す方へ音楽は前向きに展開するが、一転、終結部『…はずだった』という詩句と突き刺さるようなピアノの音型によって、大きな疑問符が投げかけられる。全5曲の重心を成す作品。」と楽譜巻頭に綴っている。「この国が最後に行った戦争が終わったとき、この国の国民は、野戦の地から・被爆の地から・疎開の地から・決意の死から・長かったツンドラから・軍靴の駆け足から・無理強いられた挙手の礼から・全くの無我夢中から…わたしたちは帰還した“はずだった”。今また、いつの間にか、そこへ向かっているのではないのか？」…そう歌っている。他の曲も含め、さまざまな社会矛盾を前にして、ひるまず冷静に真実を見つめ未来を切り開く若い意思にエールを送る木島始氏の5つの詩をテキストとして作曲されている。楽曲は、中学2年生がクラス合唱で歌うには、技能的に容易とは言えない。しかしながら、詩は生徒に深く読み取って自分たちの未来について考えるよう問いかけている。自分たちで解釈しメッセージを発信しながら歌唱表現する限界に挑む価値のある作品である。

本校の生徒は音楽に興味・関心をもっている生徒が多い。9月から実施した校内合唱コンクールの練習では、2年生は自ら授業で取り組む前に放課後等にパート練習をして、授業では全体練習の時間を確保するなど、意欲的かつ計画的・効率的に取り組んでいる。また、縦割り交流では、2・3年生が1年生を指導している。これらのことは下級生にとってよい模範となっている。授業では、指導に対する反応もよく、自ら考えて表現しようとしたり、自分で詩の意味や曲の構成について調べたりする生徒もいる。本校では、個に応じた音域、バランスなどを考慮するとともに、より豊かな音の重なりをめざして第2学年から混声四部合唱に取り組んでいる。その結果、合唱にふさわしい発声が次第に身につくようになり、豊かな響きをもった質の高い演奏となってきている。しかし、技能面の向上の一方で、楽曲のどの部分でどの技能を活かして合唱表現を工夫するかを主体的に考えることは、十分にはできていないと考えている。また、練習初期の頃は、一部の生徒がクラス練習でなかなかすぐには集中しないなどの課題もあった。その一方で、1年生の時は教師の細かい指示を待っている状況であったが、次第にリーダーを中心に自分たちで合唱表現の工夫を考えるようになってきており、教師が助言をしなくとも自分たちで表現を工夫する基礎は身につけていると考えている。

合唱表現には、作品に込められた作詩・作曲者の思いを汲み取り、解釈し、歌声で表すこと、つまり思考・判断し、表現することが求められる。その際に、身につけた技能をどう活かすかを考え、どれを

選択するか判断し、よりよい表現をするために実際に利用できることが必要となる。そこで、合唱スキルの効果的な指導のためのツールとして、タブレット端末の利用を試みることにした。主としてパート練習時に、自分たちの声をすぐに再生して聴いたり、顔の表情や口の開け方などを容易に自分で確かめることができるのではないかと考えたからである。今回、はじめて取り入れたため、様々な問題点も見えてくると予想されるが、柔軟に対応することで、技能の向上をめざすとともに、よりよい表現をめざして生徒がリーダーを中心として主体的に技能を活用して合唱表現できるよう指導していきたい。さらには練習方法や形態の工夫により、生徒の思考力や判断力が求められる場を増やし、高めさせていきたい。そして他のパートとのかかわりを意識させるとともに、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きの調和を感じ取らせ、曲にふさわしい豊かな表現ができるよう指導したい。

指導目標

1. 生徒自ら発声や音程・リズムなどの音楽的スキルを活用して合唱表現できるようにする。
2. 歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取らせ、表現を工夫できるようにする。

指導計画

1. パート別および全体練習 ----- 4時間
2. 全体練習 ----- 4時間
3. まとめの表現 ----- 2時間（本時はその2時間目）

本時の目標

1. 自分の声の状態を理解し、音程・リズムなどの音楽的スキルを活用して歌唱することができる。
2. 歌詞の内容や曲想を考えながら、歌詞の意味が伝わる表現を工夫して歌唱することができる。

「グローバル時代をきりひらく資質・能力」の視点

小・中学校音楽科では音楽活動を重視し、活動を通して、自分の思いや意図を演奏に表す方法を一つひとつ身につけさせることが重要であると考えている。学年が進むにつれて、単なる自分の思いや意図から、楽曲の理解を深めて曲想を活かした表現をするための自分の思いや意図へと深化する。さらには、相手に伝える、つまり聴く側を意識した演奏ができるようになってくる。このことから、ともに音楽表現をすることは、多元的価値観を受容する力、表現・コミュニケーション力、意思決定力を伸張することであると音楽科では考えている。その中でも、合唱練習とりわけパート練習は、まさに協働的問題解決ではないかと考え、パート練習を効果的に行うことによって、多様性・協働性・主体性の育成がこれまで以上に期待できると考えている。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆ 評価）
1. パート練習 <input type="checkbox"/> 発声や音程、リズムなどに注意して、パート別に活動する。 <input type="checkbox"/> パートリーダーが中心となって活動する。 <input type="checkbox"/> 必要に応じてタブレット端末を活用する。	<input type="checkbox"/> 表現を工夫するための方法を助言する。 ・腹式呼吸になっているか。 ・出だしの音からきちんと歌っているか。 ・発声法を意識して歌っているか。 ・音程を正しく歌おうとしているか。

<p>2. 全体練習</p> <p>□主として生徒指揮，後に教師が指揮をする。</p> <p>□発声や音程・リズムなどに注意して歌う。</p> <p>□お互いの演奏を聴き合い，曲にふさわしい表現になっているかどうかを発表し合う。</p> <p>・ローテーション形式 など</p> <p>□歌詞の内容をもとに，曲想に合った合唱表現を工夫する。</p> <p>・生徒指揮の指示，パートごとの相談 など</p> <p>□部分ごとに曲想の変化をつけて歌う。</p>	<p>・強弱などを考えて歌おうとしているか。など</p> <p>◆自分の声の状態を理解しながら，音楽的スキルを活かして歌うことができるか。</p> <p>【音楽表現の技能】</p> <p>○演奏の状態に応じて助言をする。</p> <p>・呼吸法や発声法に気をつけているか。</p> <p>・リズム，音程，強弱などに気をつけているか。</p> <p>・子音の発音を工夫しようとしているか。</p> <p>・パートの声を揃えることを意識しているか。</p> <p>・他のパートを聴いて，ハーモニーやバランスをよくしようとしているか。</p> <p>・言葉の意味を伝えようとしているか。</p> <p>・曲想を考えて歌おうとしているか。</p> <p>・聴衆を意識して歌おうとしているか。など</p> <p>○生徒の状況を常に把握することを意識する。</p> <p>・はじめは，あえて抽象的に指示することで自分でどう工夫するかを考えさせる。効果が表れにくい場合は，徐々にわかりやすく簡潔で具体的な指示をする。</p> <p>・今，何を指示するのが生徒にとって最も適切かを，常に考えて指示をする。</p> <p>◆歌詞の内容や曲想を考えながら，表現を工夫して歌唱することができるか。</p> <p>【音楽表現の創意工夫】</p>
<p>3. まとめ</p> <p>□通して歌う。</p>	<p>◆自ら考えた表現の工夫をいかして歌唱することができるか。</p> <p>【音楽表現の創意工夫】</p>

参考文献 木島 始 詩・信長貴富 作曲「混声合唱とピアノのための曲集『初心のうた』より『IV.でなおすうた』」音楽之友社，2003.

松前良昌・濱本恵康・三村真弓「基礎的な音楽的スキルの効果的な指導法－3年間継続した発声指導の効果の検証－」広島大学附属東雲中学校，2015.

松前良昌・濱本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的スキルの効果的な指導法IV－比喩的表現を用いたキーワードによる発声指導の効果の検証－」広島大学附属東雲中学校，2014.

松前良昌・濱本恵康・三村真弓「高次の学力を支える音楽的スキルの効果的な指導法III－比喩的表現を用いたキーワードによる発声指導の実践研究－」広島大学附属東雲中学校，2013.

三村真弓・松前良昌他『中学校・高等学校音楽科における聴取力育成プログラム開発のための基礎的研究－聴取力に着目した音楽科学力調査をとおして－』学部・附属学校共同研究紀要No. 39，広島大学学部・附属学校共同研究機構，2010.

参考資料 過去3年間の校内合唱コンクール 課題曲・各クラス自由曲

平成27(2015)年度

課題曲	虹色の明日 (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	田中理恵子 作詩・作曲
1年1組	混声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」より ~故郷・朧月夜・われは海の子・村祭・雪~ 文部省唱歌〔高野辰之作詩/岡野貞一作曲(一部)]/源田俊一郎 編曲	
1年2組	信じる	作詞:谷川俊太郎 / 作曲:松下 耕
2年1組	混声合唱とピアノのための曲集「初心のうた」より V. 泉のうた〔抜粋〕 IV. でなおすうた	木島 始 作詩 / 信長貴富 作曲
2年2組	混声合唱曲集「空に、樹に…」より 聞こえる	作詩:岩間芳樹 / 作曲:新実徳英
1・2・3年3組	世界に一つだけの花・花・花…	作詞・作曲:槇原敬之・喜納昌吉・小淵健太郎 / 編曲:松前良昌 作詞:武島羽衣・岩井俊二 / 作曲:瀧 廉太郎・菅野よう子
3年1組	混声合唱のためのAgnus Dei = 空海・真言・絶唱〔抜粋〕 詞:千原英喜・虚空蔵菩薩真言・光明真言・Agnus Dei 作曲:千原英喜 / 編曲:松前良昌	
3年2組	Five Days that Changed the World (世界を変えた5つの日)より 1. Thursday 29 March 1455: The Invention of Printing (1455年3月29日(木):印刷の発明) 3. Monday 14 December 1903: The First Powered Flight (1903年12月14日(月):初の人力飛行)	作詞:Charles Bennett / 作曲:Bob Chilcott

平成26(2014)年度

課題曲	大切なもの (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	山崎朋子 作詞・作曲
1年1組	合唱組曲「ことばあそびうた」より 1. やんま 5. かぞえうた	谷川俊太郎 作詩 / 新実徳英 作曲
1年2組	合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」より 1.サーカスのうた 5.動物を殺せ 10.ぞうれっしゃはしれ	小出隆司 原作 / 清水則雄 作詞 / 藤村記一郎 作曲
2年1組	混声合唱組曲「海の詩」より 2. 内なる魚(シーラカンス) 5. 航海	岩間芳樹 作詩 / 広瀬量平 作曲
2年2組	混声合唱とピアノのための「新しい歌」より V. 一詩人の最後の歌	H. C. Andersen 作詩 / 山室 静 訳詞 / 信長貴富 作曲
1・2・3年3組	映画「かぐや姫の物語」主題歌 いのちの記憶	二階堂和美 作詞・作曲
3年1組	Candlelight Carol (ともしびのキャロル) Lamentations of Jeremiah (エレミアの哀歌)	John Rutter 作詞・作曲 Z. Randall Stroope 作曲
3年2組	混声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」より 4. くちびるに歌を-Hab' ein Lied auf den Lippen-	Cäsar Flaischlen 作詩 / 信長貴富 訳・作曲

平成25(2013)年度

課題曲	虹をこえて (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	人見敬子 作詩・作曲
1年1組	混声合唱組曲「ひとつの朝」より ひとつの朝	片岡 輝 作詞 / 平吉毅州 作曲
1年2組	青葉の歌	小森香子 作詞 / 熊谷賢一 作曲
2年1組	混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より 6. 地上の祈り 7. 大地讃頌	大木惇夫 作詩 / 佐藤 眞 作曲
2年2組	混声合唱組曲「海鳥の詩」より 2. エトピリカ 4. 北の海鳥	更科源蔵 作詩 / 広瀬量平 作曲
1・2・3年3組	明日があるさ	青島幸男 作詞 / 中村八大 作曲
3年1組	混声合唱組曲「いまぼくに」より I. よげん IV. いまぼくに	谷川俊太郎 作詩 / 信長貴富 作曲
3年2組	混声合唱組曲「幼年連祷」より II 不眠 V 喪失	吉原幸子 作詩 / 新見徳英 作曲

※ 各クラスの課題曲・自由曲は、生徒の実態に合わせ、授業者が校内利用のために編曲している部分があります。